

広報

いちき串木野

春の陽気は
この寒さがあってこそ

R7. 2. 20 発行

2

vol. 232



特集 地域で支える子ども食堂



いちき串木野市公式LINE

イベント情報など配信中！ぜひご登録ください





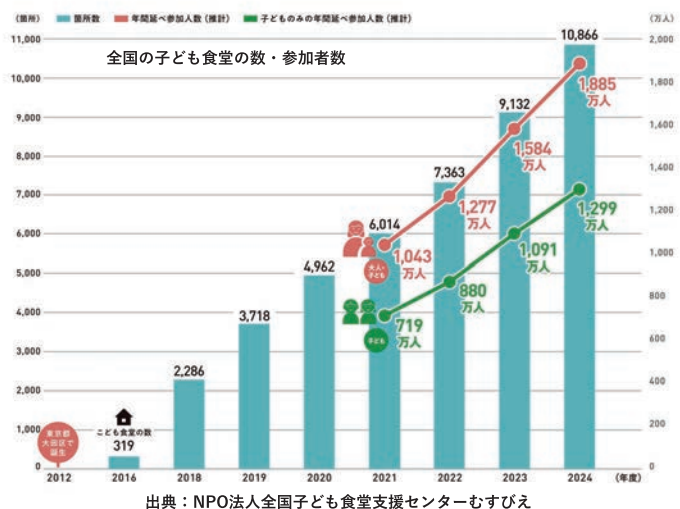
地域で支える子ども食堂 ～子どもたちの笑顔を守る取り組みが広がっています～



「お腹も心も満たされる場所」 —それが子ども食堂です。

地域のボランティアの方々によって運営される子ども食堂は、誰でも安心して温かい食事を楽しめる居場所です。単なる食事の提供だけでなく、子ども同士の交流や地域の人々とのつながりが生まれる大切な場となっています。

今回の特集では、地域で活動する4つの子ども食堂にスポットを当て、運営している方の想いや取り組みを紹介します。食を通じた支え合いの輪が、どのように広がっているのか—ぜひご覧ください。



子ども食堂の運営のため、様々な団体が支援しています。

本市の子ども食堂の食材やお菓子などは、かごしま子ども食堂支援センターたくしてや県、市の補助金などを活用して提供しています。

昨年11月21日には、串木野ロータリークラブが、市内で子ども食堂を運営する右ページの4つの団体へ食材やお菓子などを提供しました。このような善意で子ども食堂は運営されています。

▶市の子どもの居場所づくり推進事業補助金は右の二次元コードから



市内子ども食堂の運営者へインタビュー



大原地区ふれあい子ども食堂
古賀 久美子さん

ー子ども食堂をはじめたきっかけ

食に困っている子どもたちのニュースを見て、何かできないかと思い、地区のまち協で話し合い、試験的に始めました。導入時に湊町に研修に行くなどして、現在は、毎月第二土曜日に継続的に実施しています。

ー運営体制は

10名ほどのボランティアの方と当番の公民館長等で運営しています。毎月実施する週に献立の話し合いや買い物、食材の受け取りなど行います。

ー子どもたちの変化

最初の頃は、話してくれなかった子が少しずつ話してくれたり、来ている子が他の子にも紹介して来てくれるようになったりしています。

ー今後について

現在の月一回のペースで無理のない範囲で継続していきたいです。ロータリークラブさんのように食材提供の支援をいただけると、提供する料理をちょっと豪華にできたり、お菓子をあげることができて、子どもたちも喜び大変助かっています。



湊町 子ども食堂
松下 良照さん

ー子ども食堂の発足当初の苦悩

はじめは、ボランティアの方を集めたり、食材の購入など、担い手の確保や予算のことなど心配がつきなかったです。知り合いづてにボランティアのまかないさんが集まったり、予算や食材も確保できたりして、やっと安定して運営できるようになってきました。地域の高齢者の方からは、売って欲しいという要望を受けて、1食200円で提供もしています。

ー活動の原動力は

少しでも子どもたちのためになればいいなという思いがあります。最初は、緊張していたけど、ニコニコしながらお弁当をとりにくる子どもたちの笑顔を見ると続けようと思います。

ー今後について

ボランティアのまかないさんあつての活動ですので、今後も定期的な食事会などをして労を労いたいです。現在は、お弁当を配布する形で運営しているが、食べられる場所を提供したり、他の地域の子供たちへの提供なども検討しています。ただ運営の体制的に規模を大きくすることは難しいので、継続できる形で考えていきます。



ひみつきち
真田 希実さん

ーひみつきちはどういう場所？

私自身が学生時代に引きこもっていた経験から、子どもたちに学校ではなく、食事ができて、学習もできる場所を提供したいという思いで運営している場所です。月1回の子ども食堂も行っていますが、平日放課後の学習支援や長期休み、土日など給食がない日の食事提供など、日常的な居場所。また、体験が不足している子どもたちに色々な体験をさせて、自信がもてるような場所でありたいと思っています。

ー活動の原動力は

テストの結果が良かった時や学校での出来事など成長を報告してくれた時が嬉しい。また、ここを利用して子が、休日に運営を手伝ってくれることがあり、恩返ししたいという思いを感じています。

ー今後について

食が満たされると、子どもたちの表情も変わるため、食の支援はしっかりと継続したいです。また、ひみつきちに來られない支援が必要な子に支援できるような体制を考えていきたいです。そのために、様々な面で情報発信して、持続可能な運営体制を作っていきたいです。



串木野 ゆる〜い浜の地域食堂
山田 優子さん

ー子ども食堂をはじめたきっかけ

以前、日置市長の講演を聞いたことをきっかけに、自分にできることできないこと、求められていることを自問して、最終的に子ども食堂をすることに至りました。

ー活動の原動力は

食事の提供でたくさんの人が笑顔で、元気になれば嬉しいです。また、子ども食堂の実施は、ボランティア同士の様々な学びにもなり、楽しく活動しています。

ーフードロスの活動もされている

フードロス活動を行うフードバンクかごしまのいちき串木野担当として、プリマハムさんや薩摩川内市のファミリーマートの食品を市内の保育園や子ども食堂に提供する活動をしています。フードロス活動など様々な形でいただいた食材を他の子ども食堂にも提供して、繋ぎ役として活動したいです。また、市内に子ども食堂が少しずつ増えてきたことを嬉しく感じています。

ー今後について

朝ごはんは、力の源であるため、できることなら朝ごはんを提供できる場所が作りたいです。また、防災面でも災害時に食事は一番大切なことであるので、自分のできる役割を考えていきたいです。

輝く一年に 消防出初式

1月12日、三井串木野グラウンド（多目的グラウンド）にて、消防出初式が行われ、消防団員等261名、消防車両等23台が参加しました。当日は天候不順のため、規模を縮小して開催され、徒步行進、消防車両のパレード、放水訓練、救助訓練が披露されました。



●表彰者一覧

表彰種別	所属	階級	氏名
消防庁長官表彰			
永年勤続功労章	川上分団	団長	田淵幸広
日本消防協会会長表彰			
精績章	団本部	団長	西村博孝
	羽島分団	団長	福永茂幸
	羽島分団	副団長	大崎勝夫
勤続章 (30年以上)	旭班	班長	南鶴清人
鹿児島県知事表彰			
10年勤続章	川上分団	団員	下蘭みどり
	中央分団	団員	中蘭匠
鹿児島県消防協会総裁表彰			
功績章 (20年以上)	羽島分団	団員	萩元達哉
精績章 (15年以上)	照島班	班長	平石裕
	川北班	班長	豊田政浩
	中央班	班長	島津弘道
	照島班	団員	中尾和夫
	湊班	団員	原田正悟
鹿児島県消防協会日置支部長表彰			
15年勤続章	本浦班	班長	栗元一貴
	照島班	団員	須納瀬武典
いちき串木野市長表彰			
10年勤続章	冠岳分団	団長	瀬戸口健治
	生福班	班長	後潟竜二
	冠岳班	班長	橋本琢也
	生福班	班長	前村将光
	本浦班	班長	白石浩一朗
	中央班	班長	後藤真
	川南班	班長	松田健
	照島班	班長	吉永努
	感謝状 (20年以上勤続団員の奥様)		萩元綾子

シリーズ

20周年を祝う

～いちき串木野市誕生20周年～

20周年
(10月11日)まで
あと
233日
(2月20日時点)

平成17(2005)年10月11日に旧串木野市と旧市来町が合併をして、いちき串木野市が誕生してから今年で20年の節目を迎えます。その記念の年に、市民の皆さんとともに祝い、今後の市制の発展につながるさまざまな催しを予定しており、シリーズでその詳細や進捗をお伝えします。

【今後の催し(現在決定している主なもの)】

- ① いちき串木野市市制施行20周年式典の開催
10月11日(土)にいちきアクアホールで式典を開催します。
- ② 市公式キャラクター募集
3月15日(土)まで、公式キャラクターを募集しています。
募集等詳細は、右の二次元コードから。
- ③ 市のPR動画作成
本市の魅力を撮影し、移住・定住につながる動画を作成中です。
- ④ 市消防本部PRキャラクターの作成
若手職員を中心に作成中です。名称募集を後日行います。



10周年式典の様子

詳細はこちら▶



本市で取り組んでいる「食のまちづくり」に関連する情報を紹介します。「食」を通じて、いろんなことを楽しむ、いろんなことをやってみる。人がいきいきと輝き、まちが元気になる。それが「いちき串木野市 食のまちづくり宣言」です。本市は、海の味、山の味、こだわりの珈琲から蔵元の焼酎まで、心がほっとするおいしいものが身近にある、豊かな食文化を誇るまちです。この食文化をおいしく、楽しく味わいながら、人がいきいきと輝くまちにみんなで育てていきましょう。



「焼酎ツーリズム～いちき串木野市のみんなで楽しくおもてなししている未来を想像して～」

Text & photo Fumikazu Kobayashi

告白します。「昔は芋焼酎が苦手でした」でも、鹿児島に移住したきっかけは“芋焼酎”です。そして2023年からは「焼酎ツーリズム」なるイベントを主催しています。

僕が芋焼酎にハマるきっかけは、地元山梨で出会ったいちき串木野の芋焼酎でした。地元に行きつけの店があり、晚ご飯も兼ねてよく飲みに行っていました。その店主が「珍しい芋焼酎を仕入れたんだけど、ちょっと飲んでみるかい？」と声をかけてきたのが始まりです。

「いやいや、焼酎は苦手だから遠慮します」と断ったつもりが、気づけば目の前に鹿児島を象徴する酒器“お湯割りグラス”に注がれた芋焼酎が。べろっと舐めてみると、想像以上に美味しく、思わず「これどこの焼酎ですか？」と尋ねていました。「鹿児島のいちき串木野ってところで造られている焼酎だよ」と店主が教えてくれました。僕といちき串木野との運命的な出会いの瞬間です。



時は経ち、いちき串木野市が地域おこし協力隊を募集していることを知った僕は、焼酎のお湯割りを傍に履歴書を作成し、2016年に鹿児島へ移住することになります。

鹿児島に来てからは、少しずつ焼酎に関係する人とのコネクションも構築されてきました。そんなときから「僕が山梨から鹿児島に来て焼酎文化を体感しているように、全国の焼酎好きに焼酎文化を直接体感してもらうにはどうすれば良いか」と漠然と考えるようになりました。

そんなことを考えながら模索していたとき、地元山梨で15年以上ワイン文化を牽引してきた「ワインツーリズム」というイベントに辿り着きました。生産者と対話しながらワインの試飲をし、お気に入りを見つけることができました。

このツーリズムを焼酎でもできないか。そこからはワインツーリズムの主催者へ連絡をとり、運営ノウハウを学び、2023年2月25日、ついに第1回目の焼酎ツーリズムをここいちき串木野でも開催することができました。



JRの駅で受付をして、蔵と蔵を結ぶ周遊バスに乗り、地図を片手に気になる蔵へ訪問。待っているのは、焼酎を造っている人たち。そして、その焼酎を生み出してきた鹿児島の自然を肌で体感し、観光だけでは見えてこない地域ならではの飲食店を巡る。参加者はみなさん楽しそうで、少しほろ酔い

で、初めましての人とも仲良く会話しながら、焼酎を真剣な眼差しでテイastingしている光景は感動すら覚えました。



今年で3回目となる焼酎ツーリズム。全国各地から参加する人たちがお気に入りの焼酎と出会い、購入する。地域の飲食店で昼食をとり、そして宿泊もする。波及する経済効果も重要だと思っています。将来的にはイベントがなくてもいちき串木野の日常を体感しに訪れる人が増え、その来訪者と笑顔で会話する地域の人たちの姿を日々妄想しています。

今年の焼酎ツーリズムの開催は、2月23日です。ぜひ地元の方にも遊びに来て欲しいです。詳しくは、下の二次元コードからご確認ください。



WEBサイト



YouTube

これまでのおいしい情報、
コラムの続きは右の二次元
コードからご覧ください。



公式note

1/13

～いちき串木野ロゲイング～ 冠嶽八十八ヶ所巡りウォークラン



「いちき串木野ロゲイング～冠嶽八十八ヶ所巡りウォークラン～」(有)ユニバーサルフィールド主催)が開催されました。

今回で3回目となる本大会は、県内外から78名の参加があり、参加者は風光明媚な冠岳やその山麓の魅力を体感しながら、元気いっぱいウォークランを楽しみました。

今回から新たに市街地側のコースが加わり、加ポイントとなっている照島神社では参加者が笑顔で写真撮影をする姿が見られました。

ゴール後は、生福地区まちづくり協議会の皆さまによる「豚汁」「焼きもち」「生福くじ」や、大里加工グループによる「おこわ」などが振る舞われ、参加者の疲れた体を癒しました。

今回のイベントを通じて、多くの方にいちき串木野の魅力を再発見していただきました。

12/26

串高生がころばん体操とコラボ



串木野高校生が取り組む「串木野学」では、「ころばん体操の参加者を増やすには」と題し、高齢者の健康寿命を延ばし、元気な高齢者を増やすことで、介護人材不足の解決にもつなげたいと、研究に取り組んでいます。

今回は昭和通公民館を生徒5名が訪れ、考案した脳トレを披露し、参加者の皆さんは熱心に取り組みました。

参加者からは、「若い人たちがころばん体操に来てくれてうれしかった」と喜びの声が多くありました。今後、生徒たちは、PR動画を作成予定とのことで、ころばん体操をさらに盛り上げてもらえることを期待しています。

1/26

第7回未来焼酎 ～十代からの本格焼酎体験～



10代の若者たちがオリジナル焼酎を作る未来焼酎～十代からの本格焼酎体験～の第7回が開催されました。

最終回となる今回は瓶詰めとラベル貼付を行い、参加者全員でネーミングとデザインを協議したオリジナル焼酎「自紋」が完成しました。これで、約半年にわたる蔵や芋畑での体験を終え、参加者には修了証書が授与されました。

今回の体験を糧に成長した皆さんが、オリジナル焼酎で乾杯する日がとても楽しみです。

1/21

市来農芸高校×市来中学校 サワーポメロ収穫体験



市来農芸高校の果樹園で、地場産品(地産地消)への理解を深め、地域産業への関心を高めることなどを目的に、市来中学校1年生がサワーポメロの収穫体験を行いました。

生徒たちは、高校生のサポートを受けながら、黄色く色づいたサワーポメロを思い思いに収穫し、爽やかな香りが漂う果樹園での収穫体験を楽しみました。

収穫体験の後は、デコボンの選果作業を体験するなど、本市の柑橘を満喫した一日となりました。



1/5

書初め大会の実施



中央地区まちづくり協議会で、書初め大会が開催され、地域の子どもたちや神村学園日本語学科の留学生など約 50 名が参加しました。

伊波サチ子先生と峯元礼子先生の指導の下、子どもたちは真剣に取り組み、留学生は、日本の伝統行事に触れることができました。

市女性連から一人金婚者の方へ ～サンタさんからのプレゼント～



市女性連では、毎年クリスマスの時期に、一人金婚式を迎えられた方へ少しでも励みになればという思いから、地元の特産品やポインセチア、サンタクロースの折り紙を贈っています。

贈り物を受け取った方から、「思いもよらぬことで感激しました。市女性連の方々の心遣いに感謝し、やむを得ず一人になった当事者として、ぜひ今後とも多くの方々の励みになるこの事業を続けてください」と嬉しいメッセージが届きました。

1/18

なつかシネマの上映



中央地区まちづくり協議会とチーム浜風の共催で、昔懐かしの映画を上映する「なつかシネマ」が中央交流センターで開催され、約 80 名が来場しました。

上映されたのは、高峰秀子主演の日本初の総天然色映画「カルメン故郷に帰る」(昭和 26 年)でした。

市外からの参加者もあり、参加した方は、「毎回楽しみにきていて、今回も楽しかった」と話しました。

1/7

市女性連「愛の餅贈り」



市地域女性団体連絡協議会は、児童養護施設の児童生徒に向けて「愛の餅贈り」活動を実施しました。

報徳学園、友愛学園、仁風学園の児童養護施設と児童発達支援施設てんとう虫の 4 施設に合計 650 個のお餅を配布しました。仁風学園の松林園長は、「いつもありがとうございます。毎年この時期にいただけることに大変感謝しています」と話しました。

この活動は、昭和 24 年から 75 年間続いており、各施設の子どもたちは雑煮やぜんざい、焼き餅などにして喜んで食べるそうです。

学校応援団だよりの紹介

11/15 串木野小学校～心をつなぐ「花さき山」～



学校応援団事業の一環として、串木野小学校で、「花さき山」による読み聞かせが行われました。

「花さき山」は、代表の尾場瀬さんをはじめとする「令和6年度子どもの読書活動優秀団体」として文部科学大臣表彰に輝いたグループです。

当日は、絵本や人形劇の鑑賞、クイズやゲームで大変盛り上がり、児童は、ボランティアの皆さんの心が通う読み聞かせに、胸を躍らせていました。

串木野小学校では、学校応援団事業を積極的に進め、地域とのつながりを深めています。

12/22 令和6年度いちき串木野市内弓道大会



市来弓道場で、中高校生と社会人の交流と弓道技術の向上のため、いちき串木野市内弓道大会が開催されました。

当日は、中学生14人、高校生5人、社会人15人の参加があり、親睦を深めました。

大会の主な成績は次のとおりです。(敬称略)

	中学生	高校生	一般女子	一般男子
優勝	大城 奏仁	石谷 優月	橋口 聡子	西屋敷 忍
2位	桑畑 賢志朗	脇田 恵翔	石野 智美	橋口 誠
3位	萬福 拓末	吉井 恵	野澤 貴子	外園 操

アーチェリー&フェンシング教室 in 串木野高校

11/16

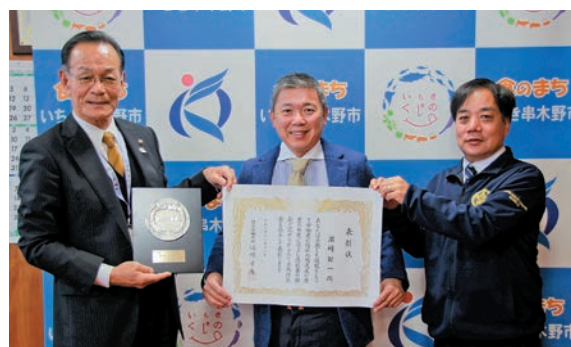


様々なスポーツの知見を広げ、生涯スポーツとしての競技の普及を図るため、串木野高校1年生の体育の授業で、アーチェリーとフェンシングの体験教室が開催されました。

アーチェリーは参加者50名全員で実射を行い、フェンシングは代表3名に実技の体験をしてもらいました。

アーチェリーでは「思ったより難しい!!」フェンシングでは「用語がめずらしく聞きなれない」「動きが素早い」など、初体験の感想が聞かれました。

12/9 濱崎シェフが「卓越した技能者」に



本市出身で、日本イタリア料理協会副会長、「リストランテ濱崎」のオーナーシェフである濱崎龍一氏が、厚生労働省から令和6年度「卓越した技能者」に選ばれました。

濱崎シェフは、日本の食材をイタリア料理に組み合わせる手法や調理師学校の講師として業界全体のレベルアップへの貢献などが評価されて、この度表彰されました。

濱崎シェフは、「鹿児島県やいちき串木野の食材を全国に伝えることを心がけています。今後は、料理教室など開き、地域の皆さまにイタリア料理に触れていただく機会を作りたいです」と話しました。